

令和2年度 後期学校評価分析

自己評価から

1 教育目標について

学校教育目標は適切と評価できる。4つの柱については良好な状況である。清掃指導についても前期の評価を基に、各クラスで声掛けを進めてきたり、児童会による「無言清掃」の取組みを行ったりしたことにより、成果が上がってきている。今後も継続した取組みを行っていくことで、より定着させていきたい。

2 教育課程・学習指導・特別活動・学校行事について

今年度は感染症対策を第一に考え、日常の学習活動や各行事を行ってきた。運動会は半日開催、全校種目のカット等の実施であった。練習日程及び当日の運営は無理なく安全に行うことができた。6年生による開閉会式、応援合戦、係活動等は、6年生の達成感を持たせる上でも有効であった。音楽発表会は保護者の参観を止め、小規模での発表・ビデオ放送の形とした。運動会、音楽発表会ともに、発達段階に即した取組みができ、ねらいに導くことができた活動となった。来年度以降の開催方法の参考としていきたい。

今年度より新学習指導要領がスタートした。新しい教科書への対応、外国語、道徳、プログラミング学習、キャリアパスポート、そしてGIGAスクール構想の対応等、やるべきことは多くなっている。今年度の活動を基に、行事や様々な活動の「精選」を考え教育課程を編成していく。

3 生徒指導について

一つひとつの事案に対する指導や対応について、「報告・連絡・相談」を密にしてきた。気になる児童については、児童情報交換会を毎月設定し、職員間の共通理解を図ってきた。しかし、全ての項目で前期のポイントを下回る結果となった。特別な指導が必要な児童については、ケース会議を行い、適切な指導を組織として行える体制を構築していく必要がある。

4 安全管理（防災・防犯など）について

全体的に良好と評価できる。地震や火災を想定した避難訓練では、担任の指導の下、適切に避難が行えている。訓練は「予告あり」、「予告なし」と変化をつけて行っている。今後は、より実践的な力をつけられるよう訓練の実施方法を工夫していくことも考えていきたい。

防犯対策としては、職員研修として、さすまたの効果的な使用法を学ぶことができた。今後は、SNSに関する研修や不審者対応等の訓練を計画的に設定していく必要がある。「危険な行動はしない」「自分の命は自分で守る」指導の徹底を継続し、事件や事故から自分自身を守る適応能力を身につけさせることが必要となる。

5 保健管理について

新型コロナウイルス感染症対策として、①健康チェックカードを利用した家庭での健康チェック、②手洗い、マスク、換気の徹底、③ソーシャルディスタンスの確保、④給食の配膳、食事中の配慮、⑤児童下校後

の校舎内の消毒作業等を行った。1 1月からは、スクールサポートスタッフに消毒作業を補助していただき、職員の負担は大幅に軽減した。また、2学期に移行した健康診断の実施を通して、学年に応じた指導を行ったことで感染防止の意識がさらに高まった。3学期以降も緊張感を保ちつつ継続した指導を続けていく。また、3学期はインフルエンザや感染性胃腸炎などが流行る時期でもあるので、注意喚起を行っていく。学校、家庭、関係機関との連携のもと、児童の心身の状況を的確に把握し、適切な対応を行っていききたい。

悩みを抱えている児童、保護者にはスクールカウンセラーとの面談を定期的に設定することで心身の安定につなげることができている。不登校傾向にある児童には、日頃より、全職員体制で声をかけ、見守っていく体制を構築していく。

6 特別支援教育について

特別支援学級の児童に対しては、一人ひとりの児童に寄り添った指導を心掛けたことで、どの子ども成長が見られ、落ち着いた環境の中でスムーズに学習へ参加できるようになっている。しかし、対応が難しい児童、通常級での学習に適応できない児童に対しては、十分な成果を得ることができなかった。

ケース会議や関係機関との情報交換会を適宜実施することで、職員の共通理解を図りながら、個別のニーズに合った指導・支援体制をつくる必要がある。

7 組織運営について

組織運営・予算ともに良好と評価できる。予算については事務と各担当で連携し、適正に処理されている。校舎や備品も古くなってきている部分もあるが、日常の点検を通してすばやく修繕を行うなどの対応ができた。職員会議を通して、全職員で共通理解を図れたことや決定事項の徹底ができたことなども成果として挙げられる。

校内研究については、今年度、一人一実践ができなかったが、ブロック研究を通して本校なりの外国語の授業スタイルを確立しつつある。しかし、5、6年生の外国語科については、研究を十分に進めることはできなかった。感染症対策を行いながら校内参観授業を推進し、指導方法を学び続けていく必要がある。

8 保護者、地域住民との連携について

1学期できなかった授業参観を行うことができ、学級での児童の様子、担任の指導方法を保護者に観ていただくことができた。また、個別懇談を実施できたことで、児童一人ひとりの成果や課題を保護者と共有することができた。今後も各種便りや電話連絡等で保護者との信頼関係を築いていく努力を行っていく。

地域住民との連携は、農業ボランティアとの農業体験が大変、有意義な活動となっている。キャリア教育の一面ともなっている。地域人材、地域資源を活用した社会体験、自然体験、地域の人との交流は、児童の豊かな心を育む上でも有効であるので、今後も連携協力を大切にしていきたい。

9 施設・設備

概ね良好と評価できる。定期的に行っている安全点検等の結果を確認する中で、経年劣化により修繕が必要となる箇所が出てくることも考えられるが、修繕箇所を洗い出し、限られた予算（修繕費）の中で対応していきたい。児童の学習や活動に支障のないような環境が作れるよう今後も対応していきたい。

児童アンケートから

19項目（全22項目のうち携帯電話・いじめに関する記述の3項目は除く）のうち、前期の評価より良くなっているものが11項目、逆に下がっているのが4項目、変わらないものが4項目となっている。学習に関する項目では、「4勉強がわかる」94%、「5文字漢字計算を覚えた」97%と肯定的評価が大変高かった。今後も、学習規律の確立や基礎的・基本的な知識や技能の定着、言語活動を通じた思考力・判断力・表現力の向上をめざしていく。校内研修を行い、授業改善を図り、授業の質の向上に努めていく。また、家庭と協力しながら家庭学習を習慣化していく取り組みを継続して行い、児童の学力の確実な定着を目指していく。

学校生活の項目では、「6友だちと仲良くできた」98%、「学校で困った事や嫌な事はない」91%、「9嫌な事意地悪な事はない」96%と前期の評価を上回る結果となった。全校いじめ防止集会や道徳の授業を中心とした学校教育全体を通じた道徳教育の推進が成果となって表れていると思われる。また、「7学校で困った事を誰かに相談できた」児童が82%と前期より6%肯定的な評価が高くなっている。一人で悩みを抱えず、相談できる良好な人間関係が築けていることがうかがえる。

また、「17嫌なことを言われたり、からかわれたりしない」は前期より肯定的評価が12%上がり93%であった。「18暴力をふるわれていない」「21無視をされることはない」の項目に関しては肯定的評価が99%であった。日常の学校生活の中で、児童が思いやりの心をもって、他の児童と関わっていることが考えられる。今後も全職員で「豊かな心」を育む教育に全力を尽くしていく。

「11自分から挨拶ができた」は、肯定的評価が92%であった。児童会本部を中心とした挨拶への取り組みが定着しつつあることがうかがえる。「13道路をきちんと安全に歩けた」は、肯定的な評価が99%であった。今後も、PTAや地域見守り隊と連携協力しながら、安全への意識の向上を目指していく。

「14家で手伝いや仕事をしたか」は、前期より6%高くなり91%であった。コロナの影響もあり、家庭での生活における役割分担ができていくことがわかる。「2外遊びや運動」、「3本を読む」はやや前期より肯定的評価が下がった結果となった。運動や読書の二極化が起きないように手立てを講じていく必要がある。

保護者アンケートから

全23項目のうち、前期の評価より高くなっているものが15項目、下がっているものが5項目、変わらないものが3項目となっている。

「1よく考える子ども」「3がんばり抜く子ども」「10物事に対して意欲的に取り組む」については90%以上の肯定的評価となっている。また、「18家庭学習の時間確保」「20家庭学習の習慣化」についても5%ほど前期より肯定的評価が上がっている。併せて「13学校は、励みになる場所であったか」は99%の肯定的評価を得ている。このことから、学校と家庭の双方が子どもにとって学習意欲を高める場所となっていることがわかる。今後も、子どもの学力向上に向けて家庭との連携を維持・強化していく。

下がった項目では、「7よく読書をする子になれたか」が9%下がっている。国語力の向上や感性豊かな子を育てるためにも、読書の習慣化を図ることが大切である。日々の授業と関連させながら、本に触れる機会を増やしていきたい。

「15学校からできるだけ多く知らせる」「16家庭から子どもたちの様子を知らせる」は5~7%肯定的評価が下がっている。家庭訪問やPTA活動の不実施、学校行事、授業参観、学年部会等の縮減等、学校と家庭が密接にかかわる部分が制限されたことも一因と考えられる。その様な中で、2学期末、個別懇談会を実施できたことにより、保護者と共通理解を図ることができたことは成果であった。今後も情報交換を行う中で、連携を図り、児童の健全な育成を図っていく。